

大谷大学図書館楠丘文庫蔵『親鸞聖人御因縁』翻刻及び対校表(一)

渡 辺 信 和

はじめに

『親鸞聖人御因縁』と呼ばれる談義本に異本が存することは、夙に日下無倫氏が明らかにされた^①。日下氏の報告を克明に追って、三井氏蔵本と大谷勝信氏蔵本の所在を明らかにされようとしたのは小山正文氏であった^②。氏は大谷勝信氏蔵本がのちに日下氏の手を経て没後、大谷大学図書館楠丘文庫に納められた経緯を明らかにされた。該本は大谷大学図書館の『楠丘文庫目録』によって検索可能となり、論者は氏と共に該本を手に取り書誌その他の調査をさせていただいた。幸いに大谷大学から翻刻の許可を得たので、今般翻刻紹介する運びとなった。氏はまた三井氏蔵本に就いても所在を明らかにされようとしたが、残念ながら現在は所在不明のようである。日下氏は先述の御論の中で、註一追加として三井氏蔵の『親鸞聖人御因縁』を借覧した事を記し、その識語を掲出された。それは左記のようである。

断曰

聖人因縁伝ハ常楽台主之所録ニシテ昔ヨリ見者スクナシ。秘メテ野州高田ノ宝庫ニ在リ。今我ガ後集ニ接シテ世ニ行コト恐アリ憚アリ。然ニコノコロ一名アリ。累々タル写本一帙ヲ持来請テ云ク、是ヲ後集ノ後ニ接デ同ク梓ニチリハメント。予コレヲ見ニスナハチ聖人御因縁伝也。長呼シテイハク此書ハ高田ノ禁函ニアリ何ゾ網ヲモテ汝ガ手裡ニ落タルヤ、先哲ノ芳墨（マツ）イツクンゾ庸筆ノ後ニ接コトヲ得ント。客ノ曰、日者他流ニ出ルノ記伝少カラズ、併出所烏乱ニシテ偽談妄説（マツ）ナカバニ過タリ以テ信ズルニタラズ、此伝高田ノ文函ニ在コト自他両流ノ所知也。因テ出所タゞシキ世ニ知シメテヒロク宇内ニ行レンコトヲ欲ス。若吾子許諾セズンバ我ヒトリ梨棗ニ容ント云フ。ア、小子ナヲ護法ニ於ル金湯ノ巧アリ、予豈徒ニシテ止ンヤ終ニ後集ニ接テコレヲ世ニ弘ス唯恐ラクハ義ニ戻リ礼ヲ失スル罪アルコトヲ知而已。

享保辛丑皐月日

高田後学

五天良空拜書

謹敬言夫祖聖人存覚四卷伝者是高田第四祖専空上人口授而存覚編集給秘而有野州宝庫、然出良空師予彼第哲預臨写而拜授シ了也。

于時享保十四年己酉夏暮夏下旬第八日写畢

桑門 了道奠拜

これは平松令三先生が『真宗史料集成』第七卷「伝記・系図」に版本の『正明傳』を掲出される時、生桑完明師から託された版本があつて、それには生桑師が対校朱書されてあつたといふその識語が「親鸞聖人正明傳」巻末に（生桑完明師対校本奥書）として掲出されているのとはば同文的に同じである。幸いに筆者は平松先生から生桑師

朱書の版本を借覽しえた。それに拠れば生桑師が卷一上の冒頭欄外に「朱書ハ原文ナリ異本ニヨリテ校合シ上梓セルモノ即此板本ナリ」とされる。本文末と五天良空の識語との間に一葉半の紙が挟み込まれ糊付けされているのであった。そこには書写者了道についての註と思しく「新屋庄称名寺第二世」の墨書がある。日下氏が「三重県一志郡新屋庄称名寺旧蔵の一本」と紹介された三井氏蔵本と全く合致することが知られよう。さらに生桑師の朱書には、巻序の有りようも記されていて、

卷一上 冒頭〜「(二十三歳)北岳ノ駿馬ノ種子ナルベシトノ、シリアヘリ」

卷二下 「建久九年範宴初春ノ祝儀」〜「綽空二十九歳ノ御時ナリ」

卷二上 「斯テ玉日ト辛アリテ」〜「是ハ建永元年丙寅秋ノコロニテアリケルトゾ」

卷二下 「コ、ニ善信聖人三十五歳ノ春」〜「遂ニ殊勝ノ往生ヲトゲケルナリ」

卷三上 「聖人伊勢国桑名ヨリ」〜「是ヲ載ラレキト聞ヘシ」

卷三下 「聖人或時常陸国府中ヨリ」「駿河国阿部川ヲワタシタマヘルホトケ是ナリ」

卷四 「寛喜年中聖人数日後説法アリケルニ」

とする。これも日下氏の指摘される分巻の様と同じである。これらから生桑師が対校に用いられた本は三井氏蔵本に他ならないことが明らかであろう。

残念ながら三井氏蔵本は見られなかったが、その本文についてはおおよそ生桑師の校合で明らかであり、今般現存する二本を対校できることはまことに幸いであった。

書 誌

以下に大谷大学図書館楠丘文庫蔵本『親鸞聖人御因縁』の書誌を記す。

装幀…袋綴写本一冊

寸法…縦二十三・五cm×横十七・一cm

表紙…鼠色無地紙表紙

外題…子持梓刷題箋に墨書「聖人御因縁 全」

内題…各巻頭「親鸞聖人御因縁卷一上」等。卷三下のみ「親鸞聖人御因縁三下」

尾題…各巻末「聖人御因縁卷一上終」等。卷三下のみ「聖人御因縁三下」巻四巻末には尾題無し。

行数字数…一面十行（字高十九・八cm内外）、一行二十三字内外。

丁数…全四六丁（遊紙無し）

整理番号…宗大／11860／1

蔵書印等…「大谷／文庫」朱角陽印

「楠丘文庫／日下無倫氏／舊蔵図書」朱角陽印

「大谷大学／図書館蔵書」朱角陽印

印文不鮮明な朱丸陽印

奥書識語…文和元年^{壬辰}十月廿八日草之畢

存覺老納六十三歳

享保十四^{己酉}十月九日写之

良珠院現住

一法院真梁

為獅子吼院真雄上人

淳忍法信禪尼

文化八年^{辛未}七月写之

その他…裏表紙見返しに「奴」字墨書の紙を貼付

生桑完明師の朱書の入った『親鸞聖人正明傳』の書誌は以下のようである。

装幀…袋綴版本一冊

寸法…縦二十五・五cm×横十八・三cm

表紙…後補藍無地紙表紙

外題…なし

内題…各巻頭「親鸞聖人正明傳卷一上」等。

大谷大学図書館楠丘文庫蔵『親鸞聖人御因縁』翻刻及び対校表

尾題…各巻末「聖人御因縁卷一上終」等。

行数字数…一面八行（単郭界高二十二・四cm×十五・五cm）、一行十八字。

丁数…全八十五丁（遊紙無し）

柱…親鸞聖人正明傳卷之一上　〇一初（二）

整理番号…表紙右下に朱書して「第九号」とある

蔵書印等…「令三／過眼」朱角陽印

序…享保癸丑之夏／高田子院雜華室／芙蓉慧海謾識

抜…惟載享保癸丑冬陽復／専修衣末勢陽散学士／慧日堂　良空蔵版

刊記…元文三戊午仲冬吉旦再校合

書林　京都錦小路新町西エ入丁　永田調兵衛

大阪高麗橋壹丁目　野村長兵衛

ちなみに本研究所が所蔵する崇覚寺旧蔵の『親鸞聖人正明傳』も本文の匡郭寸法は生桑師校合本と同じで、刊記なども同じであり同版と思われるが、寸法は縦二六・八cm×横十七・六cmで縦は生桑師校合本より長く横は短い。表紙は茶色紙表紙で原装と思われるが、題箋は黄土色子持枠刷題箋で「正明傳 全」と墨書する。恐らく原表紙のまま改装をした折に背を詰めたものかと思われる。

三井氏蔵本の性格

生桑完明師の校合の有り様は、先に触れた冒頭の「朱書ハ原文ナリ異本ニヨリテ校合シ上梓セルモノ即此板本ナリ」の文言に示される通りであるが、生桑師が見られた原本には対校がなされていたものらしく、いくつかの異本注記がある。例えば巻之一上十一丁裏では、

二十歳ノ頃トカヤ聞シ南都招提寺ノ文乗

法師ニシタガヒテ律ノ淵源ヲ聞タマヘリ。

文乗ハ鑑真和尚ノ法流ナリトイヘリ。一

説ニハ開元寺ノ沙門思託ノ法流ナリト云

ヘリ。然ラバ。又東大寺ノ鑑真和尚法弟

ナリ光円得業ハ俱舎ニモ律ニモ誉タカキ

人ナリ。コレニ從テ件ノ法文ドモヲ学タ

マヒキ。

「頃」字に朱点を文字に打ちコロと傍書

「乗」字振仮名の右にせと朱書

「法師」振り仮名を朱点で消す。

「文乗」振り仮名を朱点で消す。

「法流」字に朱点を打ち弟子と朱書し、右肩に①とし欄外に

①コ、ハ法流ト訂正ナシ」と朱書

「法流」字に朱点を打ち弟子と朱書

「云」に朱点を打ちイと朱書

「和尚法弟ナリ」に朱点を打ち右にノ孫弟子也と朱書

とされる。これに従えば三井氏蔵本はかなりの漢字に振り仮名を宛てたものであったらしく。所謂聖教としての意識を持った書写であつたらしいことが推測される。また「法流」に示される異本注記は三井氏蔵本が持っていたもののように、三井氏蔵本が異本を対校して訂正した箇所が版本と合致せず、版本とは異なる対校本を用いていたことを示しているよう。この「訂正ナシ」は以下にも何度か見られる。版本巻一之上、一二丁裏の、

天晴少納言アツバセウナゴンヤ北岳キタカクノ駿馬シユンバノ種子クネナラムト

「天晴」字に朱点を打ちアツバレと朱書

ノ、シリアヘリ

「少納言」セウとゴンの振り仮名を朱線で消す

「ラム」朱点で消し④ルベシと朱書

欄外に④コ、モ訂正ナシと朱書

も同断で、以下の「訂正ナシ」は底本がこの部分は版本の文を採っていないことを示すものと思われる。また、後で触れるが『親鸞聖人御因縁』が大きく版本と異なる部分について版本巻之二下七丁裏欄外に「此間十七行脱文入紙ニ書ス」と四角で囲んで記入し、更に「入紙紛失湖東以下ハ一左丁ハ迄是也」と朱書される。四角で囲われたのは原本が持っていた注記で、囲っていないのは生桑師の注記と思われる。それに拠れば長大な脱文と考えられた部分は別に写し入紙して有つたらしいのだが、生桑師が見られた折りには既に入紙は紛失していたことが判る。版本巻三之上四丁裏欄外にも「此間脱字数多入紙ニ写ス」と四角で囲んで書かれる。こちらは入紙があつたものらしく五行少しの本文が「」に入れられ脱字と示される。巻之三下三丁表欄外の四角に囲まれた「○此間闕字廿九」

や、「○此間脱字十行入紙ニ写ス」、卷之三下五丁裏の「待託タル御コトバニテ」「歓悦ニ堪タマヘリ」、六丁表の「空オソロシクオボエテ」などの鈎で括った部分も脱文と思われる。更に卷三下七丁裏欄外の四角で囲んだ「○此間脱字数行入紙ニ写ス」、八丁表欄外の「●以下筑波餓鬼窟ノ事アリ別紙ニ録ス 已上三下終」とするやはり四角に囲んだ記事は、九丁表欄外に「已下入紙ヲ欠ク紛失セルナルベシ」とあって此の餓鬼の話の途中からは入紙が紛失していたことを示す。

これらは三井氏蔵本が版本ではない別の本文と対校してあり、それにはほぼ版本と同じ巻立てと内容があったものと考えられよう。それを三井氏蔵本の書写者は流布本と見ていたようで版本卷之二上尾題欄外に四角で囲んで「已上流布ノ本ニハ二ノ上トス」と記す。今回はこの指摘に従って対校本をはずし、三井氏蔵本を明らかにしたい。しかし生桑師の校合の凡例が記されず、果たして生桑師のお考えの通りに三井氏蔵本を再現できたかどうかには不安が残る。振り仮名の付いた漢字について、仮名に訂正されている場合はいいのだが、同じ読みの漢字への訂正であった場合、振り仮名の有無は明らかではなく、すべてに忠実に起こし得たか自信がない。文字が替わっているのに振り仮名には言及されていない所などもあり、どのように判断するのか浅学の及ぶところではない。やはり三井氏蔵本の出現が待たれるところであろう。

その点では少し不安が残るのだが、三井氏蔵本と大谷大学図書館楠丘文庫蔵本とを比較すると、僅かな文の出入りがあること、漢字表記か仮名表記かの違いが有ること、三井氏蔵本が多くの漢字に仮名を振っているのに対し大谷大学図書館楠丘文庫蔵本は殆ど仮名を振らないこと、三井氏蔵本に特有な異体字が若干存することなどの点を除

いて、巻立ても説話の有無も殆ど同じであり、非常に近しい関係にある本といえよう。

『親鸞聖人御因縁』の特徴

ところで、『親鸞聖人御因縁』と『親鸞聖人正明傳』には、いくつかの大きな違いが存する。生桑師の見られた三井氏蔵本ではこれらを『御因縁』の脱文と見ているが、大谷大学図書館楠丘文庫も同じ箇所が無い。これらの有無によって文意が通じなくなることもないので本来これらは『親鸞聖人御因縁』には無かった記事で、流布の本文になる時点で付加されたものと見ることもできよう。第一は親鸞が流罪になって越後に赴く時、鏡の宿で三上山の神に血脈を与えた話、二つ目は筑波山で男体権現の示現を受け餓鬼を濟度した話である。これらは説話全体が欠落していてもその有無が必ずしも親鸞伝の構成を左右するものではない。そのほかの脱文とされるところも多くは文意が通じており最初から無かったものと考えられよう。何よりも三井氏蔵本に記される五天良空の識語は享保六年辛丑（一七二一）のことであり、『親鸞聖人正明傳』の刊年と考えられる享保十八年癸丑（一七三三）より十二年前のことで、書写された享保十四年（一七二九）も版本の刊行前のことであった。大谷大学図書館楠丘文庫蔵本は書写年次こそ文化八年（一八一二）と随分下るが、本奥書によれば三井氏蔵本が書写された享保十四年に書写されたものであった。こうした『親鸞聖人正明傳』刊行前の『親鸞聖人御因縁』写本の存在は、存外この親鸞伝の成立が古いことを意味しているのかもしれない。存覚の著述であるというのは先学が考察されてきたように妥当性を欠

くものといえようが、五天良空が作り上げた偽書というのはあたっていないのではないか。⁴⁾ 日下氏は、先述の御本で「恐らく江戸時代初期の製作」としておられる。

(1) 日下無倫『真宗史の研究』(一九三二年、平楽寺書店)。旧字体を通行体に訂した。

(2) 小山正文「古田武彦氏の親鸞を読んで——三夢記と『親鸞聖人正明伝』」(『中外日報』1981.03.26、0290)

(3) 平松令三先生は該本「解題⁵⁾ 親鸞聖人正明傳」に「この本は今回の『真宗史料集成』第七巻編集にあたって、『これを使用してもらいたい』、と病床中の生桑完明老師より編者に送られたもので、内題下に『昭和四年七月上旬、光雲院対校』との朱書があり、老師が若いころ異本と対校された本である。ただ対校本についての記録が記されていないが、巻頭欄外に『朱書ハ原文ナリ。異本ニヨリテ校合之上上梓セシモノ、即此版本ナリ』と朱書しておられるので、当時の生桑老師はこの版本の底本となった本と考えられたようである。」とされる。

(4) 山田雅教「『親鸞聖人正明傳』の成立」(平松令三先生古希記念論集『日本の宗教と文化』一九八九年同朋舎出版)に詳述される。拙稿「親鸞の六角堂参籠と太子伝承」(『絵解き研究』十六号、二〇〇二年三月)でも触れた。

翻刻本文

凡例

一、翻刻に際して通行の字体を用いた。異体字、略体字は常用漢字の有るものはそれに、無いものは通行体に収斂した。

一、合字は開いた。

一、各丁の終わりを「(は)などと示した。

一、生桑師の校合本（三井氏蔵本）及び『親鸞聖人正明傳』との異同は後掲の表に示した。

一、本文にある傍注は（ ）に入れて示した。

親鸞聖人御因縁卷一上

釋親鸞聖人姓ハ藤氏、内大臣鎌足ノ苗裔、勘解由ノ相公有國五代ノ孫、皇太后宮ノ大夫有範卿ノ嫡男ナリ。母ハ源氏、八幡太郎義家ノ孫女貴光女ト申。ツネニ意ヲ菩提ノ道ニ皈セリ。一宵、浮世ノ無常ヲ観シ、ヒトリ西首シテ臥シタマフ。夜マサニ半ナラムトスルニ神夢アリ。忽ニ光明アツテ身ヲメクルコト二三返、ツキニ口ヨリ入レリ。貴光女オトロキ、臥ナカラ光ノキタル方所ヲ見ニ、枕ノ西ニ一人僧アリ。（一）面を打して右に面と傍書面容端嚴ニシテ、瓔珞ノカサリアリ。スナハチ告テノタマワク、我ハ如意輪ナリ。汝ニ男子ヲ授ヘシト云。是ヨリ有胎ノコ、ロ有リ。承安（一）三年夏ノ初、誕生マシマス。彼男子ヲ十八公麿ト号シキ。生テ仲冬ヨリ起居歩行シタマフ。人ミナアヤシメリ。常ニ数珠ヲトリテ合掌シ、経巻ヲ見テハコレヲ戴、コレヲ拜スル癖マシマセリ。

安元二年二月十五日晩景ノコロ、十八公麿ヒソカニ庭ニ下リ、泥沙ヲ以テ佛像三軀ヲ造テ、コレニ向礼拜恭敬アルコトシハシハナリ。同年ノ夏、嚴父后宮太夫卒去アルノアヒタ、十八公麿舍弟朝麿トモニ伯父業吏部若狭守ノ養子トナリシハく俗典ヲナラヒ、聚螢ノミサホカツテ懈ナシ。

七歳ノ春ヨリ倭歌ノ御稽古アリ。歌集ナントモ多ヨミ覺（一）タマフ。八歳ノトキ、南家ノ儒士日野民部ニシタカヒテ、儒典ノ本經ナントヲ讀ワタリタマヘリ。

八歳五月ズエノコロ、御母堂貴光女カクレタマヘリ。イマタ四十二タラヌ御齡ニテ侍キ。臨終ノトキ、範綱卿夫婦

ヲ呼マキラセテ申サレケルハ、二人ノ幼兒ドモ四歳ニシテ先考ニオクレ、八歳ニシテ亦母ヲ亡フ。世ニタメシナキ
單孤無頼ノ者ニシテハヘルナリ。カナラス二人トモニ出家トナシ、父母ノ菩提ヲトブラハセサセタマハルベシ。サ
リトテモ足下ニマシマセハ、有範世ニヨハサンヨリモ頼シクコソサフラヘト、涙ノウチニノタマヒケレハ、三位殿
モ、猶子ハ我兒ニ比スト古ヨリ申傳ハベリキ。露ハカリ」(2才)モコ、ロニカケタマフコトナカレ、一筋ニ菩提ノ道ニ
ヲモムキタマハンコトコソ有マボシケレト、御返事アレハ、貴光女歡喜ノイロ面ニアラハレ、仏号ヲ七八十返ハカ
リ唱テ、安ラカニ身マカリタマヒキ。十八公殿ハコノ嘆ニシツミ、瘦ヲトロヘテ、起モアカラスオハシケリ。三位
範綱卿ミルニ忍カタク、法華經ノ中四要品ヲ教ヘ、是ニテ先妣ノ菩提ヲ弔ヘシ。何ソ哀傷ニシツミテ、益ナク月日
ヲ送ランコト、却テ不孝ノ咎ナルヘシト、諷諫ヲ容ラレケレハ、十八公殿コノ諫ニチカラヲ得テ、晝夜ヲワカス要
品ヲ讀誦シ、アマサヘ法華八軸ミナクニ諳誦スルハカリニ讀オボエタマフ。是ヨリシキリニ出塵ノ志モヨホシテ、
今」(2才)年ノ明ヲ待ワヒタマヒキ。誠ニ宿善ノキサシ既ニ発シ、濟度ノ強縁トキ至レルモノカ。無勝化來ノ世雄スラ、
老病死ノサソヒヲ得ナカラ、暫宮中色味ノ絆ニマトハレタマヘリ。況ヤ、凡夫ノ身ニ於テヤ。殊ニ御父ハ簪纓高貴
ノ人ニテ、母ナン武門權勢ノ頼アリ。今モシ愛別ノカナシミニ因タマハズハ、發心ノ御クハタテモナカラマシ。賢
モ父母ニハ別タマヒキ。是時御發心モナリテ、朝廷ニ衣冠ヲカ、ヤカシ、射山ニ長裾ヲヒクノ御身ニテサテ止タマ
ハ、末代凡愚ノトモカライカテカ生死ノ昏衢ヲテラシ、涅槃淨樂ノ道路ヲ知コトヲ得ンヤ。シカアレハ、今師ノ
發心ノ端のヲ以テ、」(3才)スナハチ凡夫迷情ノ者ノ信心開發ノ時節ナルコトヲ知ヘシ。一華ヒラクレハ是天下ノ春ナ
レハナリ。

九歳ノ春ノコロ御出家ナリ。是ハ先考有範卿終焉ノ時、カネテ遺言アリ。今年春ノハシメヨリ、十八公曆シキリニ伯父三位ハ難染ノ請達アリケレハ、若狭守殿ノモイマハチカラ及ハストテ、青蓮院前大僧正慈鎮和尚ノ禅室ニトモナヒタマヒタマヒテ、御出家ヲ遂ラル。戒師ハ大僧正于時二十、十八公曆九歳、権智房阿闍梨正範ト申ス人ソ除髮ヲツトメ申サル。御名ヲ範七歳宴少納言ト授ラル。干時養和元年三月十五日ナリ。(37)

同年睿峯ニヨチノホリ、入壇シテ円頓菩薩ノ大戒ヲ受ントス。大衆大ニサエキリテ云、夫円頓ノ大戒ハ一得永不ノ失ノ妙戒ニシテ、天台智者大師ヨリコノカタ傳々相承ノ品々アリ、十歳未滿ノ人コノ戒場ヲ踐コト、イマタ先蹤ヲ聞サルトコロナリト。和尚ノ仰ニイハク、抑傳法受戒ハ其人ノ器ヲ見ニ在リ。異國ヲハ知ス。我山家大師ヨリコノカタ、入壇ノ人ニ年齢ノ定式ナシ。其人其器ニアタラバ、何ソ老若ヲ撰ベキ。モシ百歳ノ老愚ニ是戒ヲ授ケバ、其人ヨク戒躰ヲ知ンヤ。サレハ竜女カ八歳ハ、円教速疾ノ規模ナラスヤ。況ヤ、白河先徳ヲハシメ、十歳未滿ノ輩、登壇ノ例少カラズト、権智房ヲ以テ大衆ノ中ヘ申サレ(44)シカハ、弟子ヲ見コト師シテニ如ナシ。カ、ル明匠ノ種子ノ我山ニ生スルコソ、二葉ノ梅檀ナレトヨロコヒテ、登壇受戒ニ障モノナカリケリ。サテモ受戒傳法ノ時ノ器量ヲツタヘキクホドノ人々、各偏執ヲステ、是ナン文殊ノ化現ナランカト称美セリ。又ナマ才覺ナル僧徒等ヨリアイテハ、イヤノ称美モ詮ナカルヘシ、近頃ノ法然文殊ノ出来タルハ、却テ山ノ害トハ成ヌ。好事ニハアラスト申人々モアリトナン。

十歳、壽永元年慈鎮僧正勅命ニ由テ山ニノホリ、天下静謐ノ御祈禱ノ事アリ。是ハ去ジ年夏ノコロ、客星出テ天變ツネナラズ。又木曾義仲北國ニ起テ、謀叛ノ(47)キコヘモハラナルニヨリテナリ。此トキ少納言殿、僧正ニ同道ア

リテ、睿南無動寺ノ大乘院ニノホリ、四教義ヲ讀ハシメタモフ。権少僧都竹林房静嚴ヲ句讀ノ師ニタノマレケリ。ソレヨリ小止觀、三大部等ヲ讀習タマヘリ。或ハ山ヲ下リ、京洛ニイマシテ、南都ノ碩學ト聞シ覺運僧都ナントヲ招請シテ、唯識百法ヲ學タマフ。コノ僧都ハ西園院ニ住セル人ナリ。或トキハ日野民部ノ大輔忠経ヲ師トシテ、俗典文章ノ稽古ナトモアリトソ。

十五歳ノ春ハ、叡山ニノホリ、毘盧舍那秘密灘頂ヲ受タマフ。師範ノ阿闍梨ハ慈鎮和尚ニテゾオハシケル。亦毘沙〔5カ〕門堂ノ明禪法印ハ、是時一山ニカクレナキ密學ノ碩才ナレハトテ、此人ニシタカヒテ密法ノ秘奧ヲナラヒタマヒキ。カクテ相ツ、キ、三大部ノ御學問アリ。亦、御至ニ岡ノ慶尊トテ華嚴ノ明匠アリ。是ニ從テ華嚴ヲ學シタマヒキ。此慶尊ハ岡ノ法橋慶雅ノ弟子ナリ。師ノ慶雅ハ源空上人壯年ノトキ、華嚴ノ師範タル人ナリ。マタ十七八歳ノトキハ、南都興福寺ノ碩才大僧都光俊、空円律師等ニアヒ、法相、三論ノ奧旨ヲ學ヒタマヘリ。

十九歳ハ建久二年^{辛亥}ナリ。七月中旬ノスエニ、法隆寺へ參詣ノヨシヲ僧止へ申タマヒシカバ、ユルサレキ。ヤガテ立越テ、〔5カ〕西園院覺運僧都ノ坊ニ七旬ハカリマシタテ、因明御學問アリ。サイワキノ序ナリトテ、九月十日アマリ河内國磯長聖徳太子ノ靈廟へ御參詣アリテケリ。十二日ノ夜ヨリ十五日ニ至テ、三日三夜コモリテ、重々ノ御祈願アリ。十四日ノ夜マノアタリニ靈告マシマス。御自筆ノ記文ニ曰

爰佛子範宴、思^ヒ入胎五松之夢^二、常仰^ク垂迹利生^ヲ。今幸詣^ニ御廟窟^ニ、三日參籠懇念^ス失^レ己^ヲ矣。第二夜四更如^レ夢如^レ幻聖徳太子從^ニ廟内^ニ自^レ發^ス石^ヲ扇^ヲ光明赫然^ニ而照^ス於窟^中。別^ニ三滿月^ニ在^リ現^ニ金赤之相^ヲ、告勅^言、

我三尊化塵沙界 日域大乘相應地〔6カ〕

諦聴諦聴我教令 汝命根應十餘歳

命終即入清浄土 善信善信真菩薩

干時建久二年^辛暮秋中旬第五日午時、記前夜告令^ヲ畢、佛子範宴^云

コノ靈告ヲ得タマフトイヘトモ、フカクツ、ミテ口外ナカリキ。唯ソノ記文ノミ御廟寺ニ在リ。ソモ件ノ告命六句ノ文ニツイテ、古来ノ口訣アルコト、予コレヲ聞ケリ。コ、ニ去シ應長、正中ノコロ、関東高田ノ専空上人登ラレシニ、洛ノ善法院并ニ河東岡崎ノ舊坊ニ於テ、兩度面謁シ、祖師一生ノ事々具ニコレヲ聞ク。今此傳ニ載トロ、ヨソラクハ⁽⁶⁾滅後展々傳聞ノ人説ニアラス。聖人面授ノ人ノ口説ナリ。シカルニ今ノ告令ノ事ヲネンコロニ問シカバ、我コレヲ惜ニハ非ス。他聞ヲ禁スルノ制アリトテ、傳サリキ。其傳習ハイマタ不聞トイヘトモ、彼返答ノ餘言ヲ以テ、ヒソカニ案スルニ、十九歳磯長ノ夢想ト、二十九歳六角精舎ノ告命トハ、大凡相似タル趣ナリトキコヘタリ。御廟寺ノ真筆ハカナラス我往テ拜見セン。専空和尚ニ親聞シナカラ、此口授ヲモラシヌルコト是余カ生前ノ恨ナリ。後來ノ徒、フカクツツネテ傳スバアルヘカラス。

二十歳ノコロトカヤ聞シ、南都招提寺ノ文乘法師ニシタ⁽⁷⁾カヒテ、律ノ淵源ヲ聞タマヘリ。文乗ハ鑑真和尚ノ弟子ナリトイヘリ。一説ニハ開元寺ノ沙門思託ノ弟子ナリトイヘリ。然ラハ鑑真ノ孫弟子也。又東大寺ノ光円得業ハ俱舎ニモ律ニモ誉タカキ人也。コレニ從テ件ノ法文トモヲ學タマヒキ。

二十一歳ノ春ノコロニヤアリケン。横川ノ飯室ニオハシテ、一心三觀ノ思惟ノ定中ニ源信和尚ニ謁シタマフコトアリ。コレ夢ニモアラス、ウツ、ニモアラス、誠ニ觀定悉地ノ徳ナリ。二十三歳ノ秋九月、横川ノ禿谷ト云トコロニ

於テ、光全、定尊、俊雅ナト云フ朋友ニ請セラレ、ヒソカニ小止観、往生⁽¹⁷⁾要集ヲ講セラル。三塔ノ名徳タチコレヲ立聞シテカヘリ、弟子等ニカタリテイハク、アツハレ僧正ヤ、能弟子^{ヨキ}ヲコソトラレタリ。アツハレ少納言ヤ、北岳ノ駿馬ノ種子ナルヘシトノ、シリアヘリ。

聖人御因縁卷一上終^(8ウ)

〔^(8ウ)

親鸞聖人御因縁卷二下 聖人二十六歳

建久九年、範宴初春ノ祝儀コトオハリテ、京ヨリ山ヘカヘリタマフニ、折フシ赤山明神ヘマキリ、法施コ、ロシツカニシテオハシマスニ、神籬ノカケヨリアヤシケナル女姓、柳裏ノイツ、衣ニネリヌキノ二重ナルヲ打カツキ、唯一人出来レリ。其シナ氣高テ、イカサマ大内ニスミケンアリサマニ見タリ。彼女姓イトハシタナク範宴ノ御ソハ近マキリテ云ヤウ、御僧ハ何ヨリイツチヘ行セタマフト。御供ニアリケル相模ノ侍従、コレハ京ヨリ山ヘカヘルニテサフラフ。女ノ云ク、妾モ年来比叡ノ山ヘ參詣^(9ウ)ノ志フカクアリシカ、今日思立テサフラフ。初テノ所ナレハ、案内モイサ、カ知ハヘラス。一樹ノカケ、一河ノナカレトヤラン申コトモアリトキク。今日ノ御ナサケニ、イサ連テ登タマワリサフラヘ、トシミくト申ケリ。範宴モ興サメテ、女姓ナレハ其事ハ知タマハシ。ソモ、我比叡山ハ、舍那円頓ノ峯高ク^聳、五障ノ雲ノ晴サル人ハ登コトヲ免サス。止観ニ密ノ谷深裂テ、三從ノ霞ニ迷フ輩ハ入コトヲ得ス。法華經ニモ、女人ハ垢穢ニシテ、仏法ノ器ニアラスト説タマヘリ。サレハ山家大師ノ結界ノ地ト定タマフモコトハリナリ。浦山シクモノホル峯カナト讀シ歌ヲモ^(9ウ)シロシメサレナン。唯是ヨリカヘラルヘシ、トノタマ

へハ、女姓範宴ノ御衣ニスカリ、涙ノ中ニ申ケルハ、サテくチカラナキ仰ヲモカナ。傳教ホンノ智者ナンソ一切衆生悉有佛性ノ經文ヲ見タマハサルヤ。ソモく男女ハ人畜ニヨルヘカラス。若コノ山ニ鳥獸畜類ニ至ルマテ、女ト云モノハ棲サルヤラン。円頓ノ中ニ女人ハカリヲ除カレナハ、實ノ円頓ニハアラサルヘシ。十界十如ノ止觀モ、男子ニカキルトナラハ、十界皆成ハ成スヘカラス。法華聖ニ女人非器トハ説ナカラ、龍女カ成仏ハ許サレタリ。胎藏四曼ノ中ニモ、天女ヲキラフコトナク、三世ノ仏ニモ四部ノ弟子ハ^(10a)有ソカシ。サハアリナカラ、結界ノ峯ナラハ登ヘキ便ナシ。妾山ニノホラハ、知識ヲタツネテ捧ントテ、持ルモノアリ。今ハヨシナシ。是ヲ師ニタテマツルヘシトテ、袖ヨリ白絹ニ包タル物ヲ出シ、是ハ天日ノ火ヲ取ノ玉ナリ。ソレ一天四海ノウチ、日輪ヨリ高クシテ尊モノナク、又土石ヨリ低シテ陋モノナシ。シカルニ、天日ノ火ヒトリ下テ、燈炬トナルコトナシ。陋土^{イヤシキ}土石ノ玉ニウツリテコソ、闇夜ヲ照ノ財トハ成ナレ。仏法ノ高根ノ水、峯ニノミ湛テ、何ノ徳用アラン。低クイヤシキ谷ニ降テコソ、万機ヲ潤ス功ハアンナレ。師ハ末代ノ智人ナルヘシ。ヨモ此理ニ^(10b)迷タマワシ。玉ト日ト相重ノコトハリ今ハ知タマフマシ。千日ノ後ハ、ヲノツカラ思合コト侍ラントテ、玉ヲハサシヲキ、木蔭ニ立カクレテ失サリヌ。其後二十九歳冬ノコロ、九條殿下息女ニ幸シタマフノトキ、姫ノ御名ヲ玉日ト申ニ意ヅキテ、是ナン日火ヲ明玉ニウツシテ、一切衆生ノ迷闇ヲ照シ、五障三從ノ女人マテコトコトク引導スヘシトノ教ナリト、ハシメテ悟タマヘリ。カノ玉ヲ奉シ化女ハ、功德天女ニテアリケル。本地ハ女意輪觀音ニテマシマス。

同建久九年^{戊午}ハ範宴二十六歳ナリ。今年叡山ノ西塔ニ一切經藏ヲ建立シタモフコトアリ。本尊ニハ弥陀^(11a)普賢ノ二軀ヲ安置セラル。是ハ先考、先妣ノ菩提ノ資糧、ナラヒニ養父養母現當ノ福田ノタメナリ。コレ睿南ニコソ立

ラルヘキニ、西塔ニハコ、ロヘカタシト人々申ケリ。範宴キ、タマヒテ、無動寺ニハ藏經不足ナシ。西塔ヲ見レハ度々ノ兵乱ノ後、經本モ大半散失シ、藏モマタ傾敗セリ。見ルニ忍カタケレハトノタマヒテ。殊ニ去年夏ノコロ、聖光院ニ拜任アリ。此時ニアタリテ西塔ヲハ聖光院ヨリ荷擔スル緣アレハナリ。範宴ハ去年夏ノコロ、小僧都ヲ申タマヒシカ、其後或ハ山王ノ神社ニ七日參籠シテ、學問ノ御祈誓アリ。或時ハ南都北嶺ノ⁽¹¹⁷⁾高德タチヲ請シテ、大小權實ノ教門ヲ聞タマフ。日夜ノ習學カツテヒマナカリキ。二十七歳ノ冬ノコロハ、攝州天王寺ニユキ、聖徳太子真筆ノ法華勝鬘經等ヲ拜見セリ。彼寺ノ大徳ニ逢テ、ソノ奥意ヲ聞タマヘリ。其僧ハ良秀僧都トヤラン云シトカヤ。時ニ才智ノ誉アルニテアリケリ。

又或時、慈鎮和尚範宴ノ御學問ノホトヲコ、ロミンカタメニ、御前ニ召テ、三大部ノ大意ヲ述シメラル。中ニモ廣詞止觀ノ奥義ヲ重々ニ御問答ニ及ヘリ。範宴コレヲ述アキラムルコト、懸河ノ波浪ヲソ、クカ如シ。又華嚴ヲ講セシムルニ、⁽¹¹⁸⁾四法界ノ談ニイタテ、古今未聞ノ弁ヲ吐タマヘリ。聞モノ天ニ向カ如ク、アハレ良弁僧正ノ再来ナルカトアヤシメリ。

二十八歳ノ十月、三七日ノ間根本中堂ト山王七社トニ毎日毎夜參詣シ、丹誠ノ御イノリアリ。コレ末代有緣ノ法ト、真ノ知識トヲ求メントノ御祈誓ナリ。同冬、睿南無動寺大乘院ニトチコモリ、密行ヲ修セラル。是モ三七日ナリシカ、結願ノ前ノ夜、四更ニ及テ、室中ニ異香薰シ、如意輪觀自在菩薩現來シタマヒテ、汝カ所願マサニ満足セントス。我願モマタ満足ストアル告ヲ得テ、歎喜ノ涙ニムセヒタマフ。是ニ由テ明年正月ヨリ六⁽¹¹⁹⁾角精舎へ百日ノ日參ヲ思立タマヘリ。

二十九歳、建仁元年^辛西正月十日^辛西^西睿南ノ大乘院ニカクレ大誓願ヲ發シ、京都六角精舎如意輪觀音ニ一百日ノ參籠アリ。サシモケワシキ赤山越ヲ、毎日ユキカヘリ、イカナル風雨ニモ怠ナク、雪霜ヲモイトハセタマハス。誠ニアリカタキ御懇情ナリ。コノ精誠シルシアリテ、計サルニ安居院ノ聖覺法印ニ逢、源空上人ノ高德ヲ聞、ワタリニ舩ヲ得タルコ、ロシテ、ツキニ吉水ノ禪坊ニタツネマキリタマヒケリ。コレ專六角堂觀世音ノ利生方便ノ致トコロナリ。」⁽¹³⁴⁾

建仁^辛西^西範宴二十九歳三月十四日、吉水ニタツネマキリタマフ。折フシ禪坊ニハ墨染ノコロモ着タル禪侶十四五人ハカリアリテ、出離ノ要路ヲタツネ奉ルアリサマ、カクテコソ實ノ道ニハ入ナンメレ。カシコクモコ、ニ參ケリト、坐ニ道心ソス、ミタマフ。彼十四五人ノ人々ハ、當時南北ニ名ヲ得タル学匠タチソオワシケル。サテ源空上人ニ謁見シ、是ハ慈円僧正ノ弟子少納言範宴ニテ侍リ。師ノ高德ヲシタヒ、生死出離ノ要津ヲ問奉ンタメニ、尋マキリヌト申サル。上人キコシメシ、僧正ノ弟子ニサル人アリトハ我モ聞トコロナリ。サレハ心底ヲノコサス宣タマヘトアリ。範宴サウケタマハリ」⁽¹³⁵⁾ヌトテ、百界千如ノ深意六大無碍ノ密藏モトヨリ會得ノ上ナレハ、舎那止觀ノ奥蹟ヲフルヒテ、問答重々ニ及ヘリ。其後空師仰ラレテイワク、今マテノタマヘルハ、皆モテ聖道自力門ノコ、ロナリ。淨土他力ノ道ヲ聞セタテマツラン。範宴ノコ、ニタツネ入タマフコト、發心ノ強盛ナルコトモ有難コトナリ。亦宿縁ノ深厚モオモヒヤラレタリトテ、他力易行ノ道手ヲトコレヲ授、安心起行ノムネ耳ヲ提テ宣ラシヘラル。又道綽禪師ハ、大集月藏經ニ我末法ノ時中億々衆生起行修道未レ有一人得者ト説ル文ニ依テ、當今末法是五濁惡世唯有淨土一門ニ可ニ通入ニ路ト」⁽¹³⁶⁾サトリテ、聖道自力ノ修行ヲ捨、淨土他力ノ真門ヲ立タマヘリ。マタ善導大師ハ、

余比日自見聞諸方ノ道俗ヲ解行不同、專雜有異、但使專_レ意作者、十_レ即十生ス、修_レ雜不至心者千中無_レ一ト見定テ、正雜ニ行ヲ立、カノ雜行ヲ捨テ十_レ即十生ノ正行ニ皈シ、順彼仏願故ト決定シテ、本願他力ノ弘誓ニ身ヲ託シタマフ。マノアタリ我朝ノ先德恵心、永觀モ、生涯之間ナラヒウカヘタル智恵ヲモ修行ヲモ捨テ、念仏ノ一行ヲ以テ出離生死ノ直道トシタマヘリ。サレハ法照禪師ノ五會法事贊ニハ、萬行之中爲_二急要_一ニ迅速無過淨土門トス、メタマヘリ。是等ハミナ既出離₍₁₄₎得脱ノ先達ナリ。實ニ生死ノ煩籠ヲ出ントヲモフ輩、誰カコノ引接ニソムキテテ、自三界ノ火宅ニ身ヲ留ルコトヲセント最ネンコロニ演説アリケレハ、範宴ハ御教化ノ間ハ、ヒトヘニ孩兒ノ母ニ逢_ル如_ク、涙ニ伏シツミテ人目モ恥カシキハカリニ泣タマフ。サテナン日来ノ畜懷コ、ニ満足シテ、タチトコロニ他力攝生ノ深旨ヲ受得シ、飽マテ凡夫直入ノ真心ヲ決定シ、多年習浮タル自力難行ノ小路ヲステ、偏ニ他力易行ノ大道ニ入り、一向專修ノ行者トナリタマヘリ。範宴○上人ニ申タマハク、世ヲ遁モノハ、名ヲモ遁ト申コトノ有○。ケニサフラフ。今日ヨリ御弟子ノ員ニ入侍レハ、師名ヲ賜ヘシト請達アリ。空師キコシメシ、₍₁₅₎實ニサルコトゾトテ、其名ヲ綽空ト授ケラル。上人ノタマワク、予カ門人ヲホキ中ニ、サワヤカニ自力ノ執情ヲステ、無手ト他力ニナリ、遂ニマタ淨土真門ヲ開ヘキ意操、アタカモ西河禪師ノ餘風アレハ、綽空ト申ソト仰ラレキ。空ハモトヨリ現師ノ御名ナリ。今年源空上人六十九歳ニテ、綽空ハ二十九歳ニナンオハシケル。建仁元年三月十四日ノ事ナリ。建仁元年三月十四日、ステニ空師ノ門下ニ入タマヘトモ、六角精舎ハ百日ノ參籠イマダ滿サレハ、オコタリナク毎日マイリタマフ。殊ニ建久九年ノ春、功德天女ノ告アリシモ、₍₁₆₎イマダ不審ハレサルヲ以ナリ。果シテ今年四月五日_甲ノ夜、五更ニ及テ、靈夢ヲ蒙タマヒキ。カノ夢想ノ記文ヲ拜スルニ、六角堂ノ救世菩薩顏容端嚴ノ聖僧ノ

貌ヲ現シタマイ、白衲ノ袈裟ヲ着服セシメ、廣大ノ白蓮ニ端坐シテ、善信ニ告命シテ宜ワク。

行者宿報設女犯 我成玉女身被犯

一生之間能狂厭 臨終引導生極樂

救世菩薩コノ文ヲ誦シテノタマワク、是ハコレ我折言ナリ。善信コノ文ノコ、ロヲ一切ノ群生ニ説聞シムベシト

云。コノトキ善信、告命ノ如クニ数千万ノ有情ニコレヲ説キ(註)カシムト覺テ、夢サメオハリヌト云。コノ告

命アリトイヘトモ、深クカクシテ口外アルコトナカリキ。夢想ノ記文トハ、親鸞聖人真筆ノ夢想記一卷アリ。

コ、ニ、同年十月上旬、月輪殿下兼實公、吉水ノ御坊ニ入御アリテ、イツヨリモコマヤカニ御法譚マシクケルニ、

殿下仰ラレテイワク、御弟子数多ノ中ニ、餘ハミナ淨行智徳ノ僧侶ニシテ、兼實バカリ在家ニテハンヘリ。聖ノ念

仏ト、我在家ノ念仏ト、功徳ニツキテ替リ目ヤサフラフヤラント。法然上人コタヘテノタマワク、出家在家ヒトシ

クシテ、功徳ニツキテイサ、カモ勝劣アルコト侍ラスト。殿下ノタマハ(註)ク、此條モトモ不審ニサフラフナリ。

其故ハ女人ニモチカツカス、不淨ノ食ヲモセス。清僧ノ身ニテ申サン念仏ハ、サタメテ功徳タフトクアルヘシ。朝

夕女境ニムツレ、酒肉ヲ食シナカラ申サンハ、イカテカ功徳ヲトラザラン。上人答テノタマハク、其義ハ聖道自力

門ニ申コトニテ侍ナリ。淨土門ノ趣ハ、弥陀ハ十方衆生トチカハセタマヒテ、持戒無戒ノエラヒモナク、在家出家

ノ隔ナシ。善導ハ一切善悪凡夫得生者、莫不皆乘阿弥陀仏、大願業力爲増上縁也ト決判シタマヘリ。ユメク御疑

アルヘカラスト云。其時殿下亦ノタマハク、仰ノコトク差別アルマジクサフラハ、御弟子ノ中ニ、一生不犯ノ

僧ヲ一人タマワリ(註)テ、末代在家ノ輩、男女往生ノ龜鏡ニ備ヘハベラント。上人イサ、カモ痛タマハス。子細サ

フラフマシ、綽空今日ヨリ殿下ノ仰ニシタカヒ申サルヘシト。綽空ハ涙ニクレ、低頭シテ御返事ヲモ申タマハス。ヤ、アリテ申タマハク、我父母簪纓ノトフコロヲ出テ、慈円ノ室ニ入シヨリ、釈門ノカストナリヌ。又天台ノ門室ヲノガレテ、一向ノ桑門トナルコト、師モコレヲ知シメセリ。数百人ノ御弟子ノ中ニ綽空ヒトリ撰レテ、今ノ仰ヲ蒙ランコト、仏天モ我ヲ捨テサセタマフニヤ。面目ナリコソサフヘトテ、墨染ノ袖ヲシホルバカリニ見ヘタマフ。良アリテ大師上人ノタマハク、其イハレ子細サフラハス。吾御房ハヨナ、(179)スキニ夏ノ初ニ、救世菩薩ノ瑞夢ヲカフムリタマハズヤアリケン。足下ノウラミハ観音ニコソアラメ。今ハカクスコト能ハシ。硯ヤアルトテ召ヨセ、御身側ウツシテ一筆アソバシ、押マキテ、彼ノ救世靈夢ノ文ハ源空サキタチテ存知テアリ。アラソヒタマフコトナカレ。事ノツイテニハンヘレバ、綽空ノ遁世ユ由來キカマホシ。残サスカタルベシト所望アリ。一座ノ人々モ序ヨシ、イカニノト強申サレケリ。其中ニモ殿下ノ御コ、ロニハ、ナマシキナルコトヲ申出シイカナラン事ヲモ聞ヤセント、安コ、ロマシマサス。綽空ハママアタリノ師命、辞スルニ據ナク、衣ノ袖ヲカキヲサメテ申出サレタリ。サテモ綽空イマタ青蓮院ノ弟子ニテサブライ(184)シトキ、過ニシ正治二年ノ秋九月ニテアリシカ、内ノ仰トテ恋ノ題ヲ下サレ、人々ニ歌ヲ讀サレケリ。師ノ僧正モ讀テ上ラルル歌ニ、

我戀ハ松ヲ時雨ノ染カネテ真葛ガ原ニ風サハクナリ

カク詠シテ、天覽ツニソナヘタマフニ、是ニマサル歌ナシ。一時ノ秀逸ナレハ、ソネム人評シ申サク、カクバカリノ名歌ハ、戀ヲスル身ナラテハ誦ヘキニ非ス。一生不犯ノ座主トシテ、戀ノ淵瀬ヲ知タマヘルコトイタツラナリト申ケリ。内ニモサソ思召ケン。公卿僉儀アツテ、ステニ流罪ノ横難ニ逢タマフ。僧正コレヲキ、テ、夫草木ハクチ

ナケレトモ、飛華落葉ニモノヲイハセ、禽獸ハ鳴テ涙ナシトイヘトモ、コレヲ詠スルハ歌道ノナラヒゾカシ。コロニ戀ハ」(187)シラズトモ、人ヲウラムル風歌ナラハ、ナトカ此歌ヲ讀サラント奏セラレケル。サラハ僧侶ノ假リニモ知マシキ事コソ読サルヘシトテ、重テ鷹ノ羽ノ雪ト云題ヲ下サル。スナハチ読テタテマツル歌、

雪フレハ身ニ引ソフルハシ鷹ノ左ノ羽ヤ白フナルラン

コノトキ主上臣下モロトモニ掌ヲ拍テ、マコトニ明師ノ知サル事ハナシトテ、大難ヲ晴、カヘテ倭歌ノ美名ヲ取タマヘリ。コノトキノ使ハ僧正一生ノ浮沈ナレハトテ、範宴コソ參ヘシトアリ。某モマタ嚴師生准ノ安否ナレハ、ス、ンテ參内ス。上ヨリ此ノ歌ノ使ハ誰ト、御タツネアリ。大進有範カ子範宴少納言ト奏ス。サテハ養父三位モ歌知ナリ。師ノ僧正モサスカノ達者」(191)ナレハ、範宴モサゾアラン。歌ツカマツレトテ、同ク鷹ノ羽雪トイヘル題ヲ賜ハル。但シ師ノ僧正タゞサキヲ詠シタレハ、範宴ハミヨリノ羽ヲ読ヘシト仰アリ。

ハシ鷹ノ右ノ羽風吹立テオノレト拂フ袖ノ白雪

ト申タリケレハ、上一人ヨリ堂上公卿ニ至マテ、サスカ三位ガ養子僧正ノ弟子カナト、褒美セラル。主上御感ノ餘ニヤ。檜皮色ノ小袖ヲ賜ハレリ。肩ニカケ、ヲホユカヲオリ、置石ノ邊ヲマカンテシ間、ツクく思ケルハ、コノタビノ歌モシ仕損ジナハ、師範養父ノ名ヲモ下ベシ。自害ヲセンモ僧徒ノ道ニアラス、天台ノ門跡ナランニコソ、此後モイクタビカ大内ニ召テ、浮世ノ」(192)塵ニ交ナン。師ノ僧正モ雲上ノマシハリユヘニ、カ、ル患難ニモ逢タマヘリ。好也コレソ遁世ノ因縁ナラメト、無下ニアサマシク覺シカハ、六角ノ精舎ヘ百日ノ歩ヲ運シニ、感應ニヤ有ケン。計スモ嚴師ノ高德ヲ聞、スミヤカニ名利ノ衣ヲヌキ、心モ身モ眞實ノ墨ニソメサフラヘト、最コマカニ語タ

マフニ、空師ヲハシメ百有余人ノ御弟子、月輪殿下ニ至マテ、ミナ感激ノナミダ止カネタリ。上人ノタマヒケルハ、今一ツ残トコロノ侍ナリ。彼救世菩薩ノ告命ハ、イツノ為ニコサレケン。綽空此一事ヲハ許タマフベシト。上人打咲セタマヒ、シカラハ源空ガ書シ一紙ハ、偽ニコソナラメ、ハヤ〜ト責タマヘハ、今ハ申ヘシトテ、過ヌル四月ノ靈告四句ノ文残サズ語カタリ申サセタマフ。上人イツヨリ⁽²⁰⁾御機嫌ウチトケテ、初二書セタマフ巻紙ヲオシヒラキ、殿下ヲ始タテマツリ、人々コレヲ御覽サフラヘ。イツカハ申誤サフラヒキトテ、指出シタマフ。誠ニ上人ノカネテ記サレタル文言靈夢ノ四句ノ文ニ一字モタガハザリケルソ不思議ナル。三百餘人ノ御弟子達、アハレ綽空ハイカナル仏菩薩ノ化迹ニヤトサ、ヤカヌ人モナカリシ。綽空ハ胸ウチサワキ、仕成タル世中ヤ、ト片腹イタク思召トモ、現師ノ指授ナレハ、チカラ及タマハズ。信空聖覺等ノ智徳モイサメス、メ申サルホトニ、月輪殿モヨロコビ堪カネ、ヤカテ同車シテ還御シ、綽空ヲ五条西洞院ノ御所ニウツシ、御娘玉日姫ニ配嫁シタマフ。玉日ハ今年十八歳ナリ。哀哉、月輪殿下ハ、凡夫往生⁽²¹⁾ノ正信ヲ傳通セント欲シテ、紅闈鍾愛ノ賢娘ヲヤツシ、イタハシクモ貧道黒衣ノ卑婦人トナシタマフ。痛哉、大師上人ハ弥陀一教ノ利物ヲ顕彰センガ爲ニ、相承神足ノ高弟ヲオトシテ、在家修行ノ先達ニソナヘタマヘリ。竊ニコレヲ案ニ、一人ハ勢至ノ應現ナリ。一人何ゾ、直也人ナラン。仰テコノ善巧方便ヲ信スヘキナリ。綽空廿九歳ノ御時ナリ。

聖人御因縁卷一下終⁽²¹⁾

〔⁽²¹⁾〕

親鸞聖人御因縁卷二上

斯テ玉日ト幸アリテ、五條西洞院ニ住タマフ。明建仁^二壬戌^一年十月、男子誕生アリ。名ヲ範意ト申ス。後ニ印信ト改名セリ。聖人左遷ノ時、範意六歳也。三十歳四月五日、綽空六角堂ヘマキリ、御通夜アリ。夜明マデ念誦礼拜シテ、紅涙ニシツミタマフ。是ハ去年告令ノ曠大ノ恩ヲ報奉ラル、モノナリ。

元久二年^{乙丑}ノ春、綽空吉水ヘマキリタマフニ、御前二人モナシ。上人ヒソカニ選択集ヲ授テノタマハク、足下ニハ他力ノ法門ニ於テサワヤカナル法器ナリ。是ハ我撰集ノ秘書ナリ。アナカシコ、ハヤク写取テ、他見スベカラズト。即化身土文類六ニ云、元久^{乙丑}ノ年恩恕ヲ蒙テ選択ヲ書シキ。同年初夏中旬第四日、選択本願念佛集ノ内題ノ字、并ニ南無阿弥陀佛往生之業ニハ念佛ヲ爲本ト、積ノ綽空ト、空真筆ヲ以テコレヲ書シム。同日、空之真影申預リ、図畫シ奉ル。同二年閏七月下旬第九日、真影ノ銘ハ真筆ヲ以テ合書タマフ。又、夢告ニヨテ綽空ノ字ヲ改、同日御筆ヲモテ名之字ヲ書シメ畢ヌ。乃至製作ヲ書写シ、眞影ヲ図畫ス。コレ專念正業ノ徳ナリ。コレ決定往生ノ徴ナリ。ヨテ悲喜ノ涙ヲオサヘテ、由来ノ縁ヲシルスト^云。シカレハ我祖善信ハ大師上人隨自意ノ神足ナリ。因テ、随他方便ノ行相ヲス、メズ、偏ニ一向專念ノ正信ヲ弘通シタマヘリ。ハタマタ^{乙卯}本地ヲタツヌレハ、曇鸞和尚ノ後身ナリ。大凡大士ノ悲門ハ、或トキハ師トナリ、或トキハ弟子トナリ、唯其化度ヲ專ニシ、三國ニ流傳ヲ欲スルニアリ。

或時善信源空上人ニ申タマハク、数多ノ御弟子達ハ、トモニ一師ノオシヘヲ受テ、コトク^一往生不退ヲ期スルモノナリ。然トモ、報土得生ノ信一味ナリヤ。將タ異ナルヤラム、明ニ知カタシ。面々ノ信心ノホトヲ試テ、全一ニ決定セシメタマハ、且ハ當来同生ノヨロコヒ、且ハ生前朋友ノムツヒ、コレニ過ヘカラストノタマハク。誠ニ能

モ申サレタリ。スナハチ明日人々集會ノミキリ申出ベシト。翌日門人集會ノトコロニ、執筆善信坊ノタマハク、今日ノ集會ハ、⁽²³⁷⁾信不退、行不退ノ兩座分テ、人々ノ解會ヲ試ラル、ナリ。何レノ座ニツキタマフヘシト示サルヘシト。コ、ニ三百有餘ノ門人ミナコ、ロヘサル氣アリ。時ニ大僧都法印聖覺、法蓮房信空、法力房蓮生等、信不退ノ座ニマキルベシトテ、其座ニツカレタリ。此時數百人ノ輩、左右ヲカヘリミテ口ヲ嚙メリ。人々無音ノアイダ、善信モ信座ヲマキルベシトテ、自名ヲ書載タマフ。暫アリテ、空上人仰ラレテイハク源空モ信ノ座ニツラナルベシト。其時數百ノ門人或ハ恥ル人モアリ、或ハ後悔ノ色ヲ含メル人モアリキ。

又或時善信房吉水ニマキリタマフニ、聖信房湛空、勢觀房源智、念仏房自餘ノ人々ハジメヨリマキラレタリ。物⁽²³⁷⁾語ノツキテニ、念仏房申サク、自他同心身トモニ往生ニソミタル人々ナリ。シカレトモ凡夫ノ信心ハ誠スクナク、虚假モ疑心モ打交レリ。イツカ上人ノ如ナル信ヲ得テ、慮ナク往生ヲ遂ヌヘキト。聞ツル人々モシカ〜ト同意ニ申サレキ。其中ニ善信ヒトリウケカヒタマハス。否トヨ、自身ニハサハ思ハヘラス。上人ノ御信心モ、マタワレ善信カ信心モ、イサ、カモ替所アルヘカラスト思ナリト。聖信房以下人等コレヲトガメテ云、善信房ノ申サル、コトイハレナシ。争カ上人ノ御信心ニ及ヘキト。善信イハク、御智慧學問ニヒトシカラムト申サハコソ恐タル僻事ナラメ。他力ノ信心ニ於テ、一タヒ其コトハリヲウケタマハリシヨリ、全ワタクシノ心ナシ。上人ノ御信⁽²³⁸⁾心モ佛ヨリ給ハラセタマフ信心ナリ。善信カ信心モ仏ヨリ給ヌ。イカテカ替コトノアルヘキト。アラソヒテ互ニ止サリキ。上人キコシメシテノタマハク、自力ノ信ニコソ智慧ニ随テ淺深ノカハコトソカシ。他力ノ信ハ仏ノ方ヨリ賜ハラセタマフ信ナレハ、我モ人モ皆ヒトツニシテ、イサ、カモ替トコロナシ。人々ヨク〜此義ヲコ、ロヘラルベ

シ。信ノ替アフテオハシマサン人々ハ、我マキラン浄土ヘハヨモマキラセタマハシトノタマヘリ。コレハ建永元年
丙寅秋ノコロニテアリケルトソ。

聖人御因縁卷二上終(247)

親鸞聖人御因縁卷二下

コ、ニ善信聖人三十五歳ノ春、北國ヘ左遷セラレタマフ。其来由ハ、源空上人専修念佛興行ニヨリテ、都鄙ノ教化
 風ノコトク傳ヘ、君臣皈依草ノ如ニナ靡ケリ。是時南都興福寺、北岳延暦寺ノ僧侶、鬱憤ヲサシハサミ、専修念仏
 ヲ停廢シ、源空上人并上足ノ輩、殊ニハ権大納言公繼卿ヲ重科ニ處ラルヘキヨシ、上疏ヲ捧コト再三ニ及ヘリ。魔
 障隙ヲウカ、ヒ、怨讎便ヲモトムル折節ナルニ、上人ノ御弟子住蓮、安樂等アヤマル事アリ。コレニ由土御門院御
 宇、承元元年丁卯仲春上旬、公卿僉議アテ、同月下旬、源空上人并ニ上足ノ弟子等、左遷ノ宣旨ヲ下サレケリ。善
 信(254)房モ死罪流罪ノ中ニ議定イマタ決セズアリシニ、六角中納言オリフシ八座ニツラナリテアリシカ、纍ニ申有
 ラレシカバ、遠流スベキニ定メラレキ。三月十六日午時、源空上人ヲ華洛ヲ出テ配所ニヲモムキタマフ。還俗ノ名
 藤井ノ元彦。謫所南海道四國。法算七旬五。追捕ノ檢非違使宗府生尚経。送使左衛門府生武治也。

同十六日卯ノ初刻、善信聖人出京也。コレハ空上人イマダ都ニマシマス内ニ、片時ナリトモ先立テ洛ヲ出ントテ、
 兼テ送使ノ許ヘタノミ置ル、故ナリ。還俗ノ名藤井ノ善信。謫所北陸道越後國頸城ノ郡国府。法齡三十五歳。檢非
 違使府生行連。送(255)使府生秋兼ナリ。行程十三日ヲ経テ、三月下旬第八日、郡司小輔年景カ館ニ下著アリ。謫居
 五箇年ノ間ハ、髮ヲモ剃セタテマツラズ、有髮ニテマシマセハ、愚禿トナノリタマヘリ。五年ノ後、順徳院聖代建

曆元年^辛未十一月十七日、流罪赦免。勅使ハ岡崎中納言範光卿ナリ。此公卿ハ聖人養父三位範綱ノ嫡子也。河東岡崎村ニ別業ヲ立テ、帝ニカヨヒ住レシホトニ、岡崎黃門ト号セリ。十二月上旬、中納言越後ニ下著シテ繪言ノ趣ヲ傳ラル。シカレトモ聖人日来ノ心痛シキリニマシマセハ、唯御礼ノ請文ハカリアリテ、其歳ハナヲ越後ニ止マリタマヘリ。彼ノ請文ニ、愚禿親鸞言ト書上ラレケレハ、マコトニコ、ロキ、タル奏⁽²⁶⁾状ナリトテ、君モ臣モ大ニ御称美アリキ。翌年仲秋ノ中コロ御上京アリ。八月二十日餘ニ、岡崎中納言範光朝臣ニツキテ勅免ノ御礼ヲ申タマヒケル。御飯京ノ初ニハ、直ニ源空上人ノ墳墓ニ詣テ、シバ^く師弟芳契ノ薄コトヲ嘆キ、参内ノ後ニハ、マツ月輪禪定ノ御墓ナラヒニ玉日ノ前ノ芒家ニマキリタマヒテ、御誦經ト紅涙トコモ^くナリ。印信モ御供ナリシカ、玉日ノ御墓ニテハ今更終焉ノワカレノ心地シテ、哀傷ノ涙ニシツミツ、其折フシノ事トモマテ語出サレタリ。母公御イタハリノ内ニモ、亦イマハノ時ニ至テモ、汝ガ父ハ科ナキ左遷トナリテ、北狄ノ中ニ身ヲ捨タマフソ。我カ身マカリナハ、越後^トへ^ト菟申サレ、北國^ヘへ^ト角申ヤレト仰ラレシモノヲト、口説ツゞケテ、泣レケレハ、聖人モ御涙ニ咽カヘリタマヘリ。

同年九月、聖人城州山科ノ邑ニ一寺ヲ草創シタマフハ江東荒木ノ源海ノ請達ニ因テナリ。今ノ興正寺是也。同十月、聖人ハ邊鄙ノ群萌ヲ化益センガ為、遙ニ東関ノ料數ヲ思召立テ、下向アリ。伊勢大神宮ヘモ御參詣アリ。同國桑名ノ御崎ト云トコロニ一夜トマリタマフ。其地ノ漁父トモマキリテ、世ノワサ多キナカニ、カ、ルアサマシク罪フカキ身ニ生逢ヌルコト、宿業ノホトモ耻カシクサフラフ。此身ニテハ後世イカデ助リサフラフラント嘆申ケリ。聖人ノタマハク、カ、ル身ドモニテモ、責經^チ陀羅尼^ノ一言ヲモ覺ヘ、亦座禪ナント、云コトモ聞習ケルニヤト。漁

父申サク、昼ハ終日ニ殺業ニヒマナク、夜ハ通夜ニ明日ノ宮ヲコソコ、ロニカケサフラヘ。イツ隙アリテ経ヲモ讀ナラヒ、亦観念ノ窓ニモ向ヘキト申ケル。聖人打咲タマヒ、無智ノ人ノナマサカシキハ往生ノタメニ大ナル害ナリ。弥陀ノ本願ニハ善人ヲモ好マス、悪人ヲモ嫌ハズ。スベテ十方衆生タ、信心念仏ヲモテ往生ヲ願ハ、助ベキトノ御誓ニテコソハアルナレ。若機ノ善悪ヲカヘリミハ、今ノ世ノ人ハ千万人ノ中ニ一人モ助ルモノ有ベカラズ。唯アリノマ、ニテ、無手ト本願ニスカルコソ決定往生ノ人ナレ。唐ノ善導大師、我朝ノ法然上人ハ、天下ニナラビナキ智者ナレトモ、ミナ智恵才覺ヲステ、⁽²⁷⁹⁾愚痴無智ノ身ニナリテ、極楽ヲ欣ヒタマヘリ。罪ヲイヘバ五逆十惡モ往生ス。機ヲイヘハ東西不弁ノ者モ撰取ニアツカル。誰カコノ教ヲ信セサランヤト、勸タマヘハ、各フタゴ、ロナキ信者トナリ、遂ニ殊勝ノ往生ヲトゲケルトナリ。

聖人御因縁卷二下終⁽²⁸⁴⁾

」⁽²⁸⁵⁾

親鸞聖人御因縁卷三上

聖人、伊勢ノ國桑名ヨリ東海道ヲ下タマフ。マツ常陸国下妻ノ小嶋ノ郡司武弘ガ館ニ下着アル。在京ノトキハママツ越後ヘト御志モアリシニ、武弘ソノカミ聖人ニ親ノ事アレハ、此ヨシミヲ忘レス、京都マテ使ヲマキラセテ、招請シケルホトニ、マツ小嶋ニ趣タマヘリ。シバラクアリテ其年ノ冬折フシ、雪モ降ザリケレハトテ、越後ヘ立越タマフ。是ハ四十歳ノトキナリ。四十二歳ノウチハ越後ニマシ／＼ナガラ、信濃上野ノ間ニ徘徊シテ、教化ヒマナシ。其後常陸ノ國横曾根ノ性信房、御迎ニマキラレケレハ、亦下妻ヘカヘラレス。武弘ヨロコビニ堪ズ。ヒトヘニ師教

ヲ仰テ他念ナカ^(29オ)リキ。遂ニ建保四^丙子年十一月、六十餘歳ニシテ殊勝ノ往生ヲトケニケリ。常ニハ強氣ナル武士ト見ヘシカ、菩提心フカ、リケレハ、臨終ノメテタキ事ドモ聞人コレヲウラヤミケリ。聖人モ無二ノ御門徒ナレハ、アハレミ悲クオホシケル。

聖人四十五歳、建保五年^{丁丑}ノ夏ノ初、同シ國笠間ノ郷稲田ト云所ニウツリテ草庵ヲ占タマフ。其ユヘヲタツヌレハ、去年仲冬小嶋ノ郡司ステニ往生トケヌ。聖人モ最アデキナク思食ケル。コ、ニ國中ニ教化ニアツカル道俗、オノノ小嶋ニマキリ聖人ニ申ヤウ、コノトコロハ當國ノクニハシト申ヘシ、郡司殿モステニ御ヲシヘニ因テ往生ヲ遂ニキ。御コ、ロニカ、ルコトモハヘラン。笠間ノ^(29カ)邊ハ信心ノ門徒オホシ。今ハ彼地ニウツリカヘサセテ、教化ヲ專ニシタマフベシト。聖人モサスガニ其請モモタシガタクシテ彼方ニ移タマヒキ。是ヲ稲田ノ御坊ト申ナリ。コ、ニマシマスコト、十有余年。ハシメニハ幽棲ヲ占トイヘトモ、道俗アトヲタツネ、蓬戸ヲ閉トイヘトモ、貴賤チマタニミツ。是時聖人思タマハク、當初救世菩薩ノ告命ステニ符合スルニ似タリトテ、喜ノアリサマ身ニアマリタマヘリ。

建保七年ノコロハ聖人四十七歳ニテマシマス。常陸下総下野ノウチ、コ、カシコニ往返シ教化サカンナリ。此時下妻ニ源三位入道頼政カ末孫、兵庫頭宗重ト云ノアリ。一門頼茂カ謀叛^(30オ)ニ因テ、同意アルカノ由沙汰アリテ捕ラレ、既ニ刑セラレントス。聖人フカク乞託テ、剃髮シ、御弟子トシタマフ。下妻蓮位房是也。

四十七八歳ノ時ハ、鹿嶋、行方、奥郡、南ノ庄、國府、柿岡、羽黒、小栗ナンドヲス、メタマヘリケルニ、鹿嶋ノチカキアタリニ鳥巢ト云^リアリ。此里ニ寺アリ。寺中ノ墓ヨリ、女ノスカタナル妖靈出テ人ヲナヤマス。寺僧法

力ヲツクセトモ験ナシ。他師ヲ請シテ、種々ノ行法ヲ用トイヘトモ曾テ止ス。爲方ナクテヤアリケン。住侶ノ僧聖人ノ許ニマキリテ申ケルハ、某カ寺ニシカ⁽³⁰⁾ノ事ハヘリ。是ハムカシ山賊悪八郎ト云シ者ノ墓ナリ。四十年已前ノ事ニテ侍シガソレヨリ以來カ、ル妖災アリテ今ハ⁽³¹⁾入来人サヘタヘ⁽³²⁾ニテ、寺院ステニ魔ノ住家トナレリ。願クハ、明師アハレミヲ垂タマヘト。聖人ノタマハク、夫願主ノ大悲、ナヲ五逆ノ者ヲ捨ス。況ヤ盜殺ノ罪ヲヤ。仏力難思ナリ。何ソコレヲ救サランヤト。明日其地ニ往タマヒ、小石ヲ集、三部ノ經典ヲ書、カノ墓所ニウツミ、五箇日ノ間誦經念佛シタマヘリ。第四日ノ夜半ニ至テ、墓ノ中ニ聲アリテ云ク、我地獄ノ重苦ヲ受コト四十年、タマノ⁽³³⁾人間ノ身ニタヨレハ、其苦少シノガル、ヒマアリ。故ニサマノ⁽³⁴⁾妖ヲナシタリ。然ニイマ大善知識ノ法力ニヨリ、スミヤカニ極樂國土ニ往生ス。今ヨリ以後ワサワヒアルベカラスト。聞モノ身ノ毛ヲ立タリ。其後ハタシテ、妖災アルコトナシ。コ、ニ鹿嶋ノ⁽³⁵⁾神官尾張守中臣ノ信親、件ノ不思議ヲキ、テ、フカク聖人ニ皈シタテマツリ、感心ノ餘ニ我カニ⁽³⁶⁾男磯崎治郎信廣トテアリシヲ聖人ニタテマツリテ御弟子トス。順信房是ナリ。聖人御皈落ノ後、関東ノ法流シバラク錯乱スルコトアリテ、聖人ヲモ偏頗アル人ナリト沙汰シテ、アシキサマニ申人多カリキ。順信房嘆ニタヘカネ、鹿嶋明神ニ一七日參籠シ、聖人モシ凡人ニテマシマサハ、聊ノ誤モ偏頗ナントモサフラフヘシ。実ニ権現ニテマシマサバ、更ニアヤマリナカルベシ。イカナラントモ、明神コレヲ示タマヘト、丹誠ヲコラシテ祈ラレケル。満夜ニイタリテ、明神ノ示現ニ、善信ハマサシキ権現ノ聖人ソカシ。唐ノ⁽³⁷⁾道綽禪師ノ後身ナレハ、争カイサ、カモ誤ノアルベキヤトテ、一首ノ歌アリ。

青柳の千すちの糸ハ乱とも一木乃松の色ハ替らじ

是ヨリ二心ナキ御弟子ノ員ニ入ニキ。後ニ聖人一生ノ事ヲシルサレタル書ニモ是ヲ載ラレキト聞ヘシ。

聖人御因縁卷三上終(32才)

「(32才)

親鸞聖人御因縁卷三下

聖人或時常陸國府中ヨリ稻田草庵ニカヘリタマフニ、若國山ノ東ノ方ヲトヨリテ歸御セラル。日ステニ西山ニカク
レテ、道路ニ人ナカリキ。彼山ノ麓ナル深淵ヨリ大蛇出テ、道ニ横タハレリ。其長ニ丈餘、マコトニ怖ベキアリサ
マナリ。聖人歩寄テ、汝ワレヲ害セントテ出タリヤ。將ワレニ用アリテ出タリヤト問タマフニ、大蛇頭ヲ下兩眼ニ
涙ヲ流コト雨ノ如シ。聖人アハレミタマヒ、仏法ニハ改悔懺悔ト云コトアリ。汝今夜我稻田ノ庵室ニ來ベシ。蛇身
ヲ解脱スル法ヲ授ベシト、オシヘタマヘバ、ヨロコヒノ姿ヲナシ、浪ヲ分テ入タリ。其夜深更ニ及テ、女性(33才)ノ
聲シテ草庵ニ音ヅル、アリ。聖人カネテ御約束ナレハ、自トボソヲ開テ召入、蛇身ヲ受タリシ宿因ヲ問タマフニ、
答テ申サク。妾ハ先生猿子村ノ某ガ母ナリシカ、其性極貧ニシテ常ニ瞋恚サカンナリ。僧尼ヲ見テハ仇ノ如クヲモ
ヒ、婢妾ノトモカラニ於テハ、瞋ノホムヲ胸ニモヘ、止ヒマナカリキ。自餘ノ悪心晝夜ニタエルコトナケレハ、争
ソノカズノハ申ベキ。サレハ死テ今コノ蛇身ヲ受、水中ニ住ナカラ身ハ三熱ノ焰ニ焦サレ、鱗ノ内ニハ百千ノ毒
蟲アリテ肌ヲツキハムコト、針ヲ以テ肉ヲ穿ヨリモハゲシ。伏テネガハクハ、明師憐ヲタレ、此大苦惱ヲ救タマ
ヘト、涕泣雨涙ス。聖人カネテ調ヲキタル血脈ヲ給ハ(33才)リ、汝ヨリ聞ベシ。海底ノ龍女モ、如來ノ法ヲ決テ即身
ニ成仏シ、摩羯大魚ノヲソロシキモ、仏名ヲ信ジテ暴心ヲヒルガヘセリ。此血脈ハ他ナシ。如來万徳ノ名号ト、汝

カ法名トナリ。深く信仰ヲ致シ、今ノ畜身ヲハナルベシト、ネンゴロニ教化シテカヘラシム。其後幾ホトナクシテ、彼池ニ大蛇ノ屍水上ニ浮出タリ。コレヲ見レハ、頭ノ鱗ノ間ニ、聖人ノ賜ヒシ涼光トアソバシタル血脈ヲイタ、キタリ。近隣ノ里ノ男女其ノ夜ノ夢ニ件ノ大蛇天人ノ装束ヲ著テ昇天スルト覺ヘタリ。

聖人或年ノ秋、國府ヨリ稲田ヘ帰御アリケルニ、日ステニクレニケリ。常ニ往返シタマフニヨリ、今夜モ又大増ノ道ニカ、リ、板敷⁽³⁴⁾山ヲ越タマヘリ。同シ國上宮ト云村ニ山伏アリ。播磨公ト云者ナリ。又アマビキノノ邊ニ、アマビキノ小川房ト云モノ小山寺ノ吉祥ト云モノ一類ノ修験者ナリ。中ニ就テ、播磨公日比聖人ノ勸化ヲネタミ、三人トモナヒテ板敷山ニシノヒユキ、時々ウカガヒ聖人ヲ害セントネラヒキ。度々ニ及トイヘドモ、事ヲ遂ズ。ツラ／＼ソノ參差ヲ按スルニ、モットモ奇異ノ思ヒアリ。イザ聖人ニ謁シテ事ノ様ヲミルベシトテ、弓箭兵杖ヲ帶シ、稲田草庵ニマイリテ案内セリ。御庵室ニ居逢タル御弟子達ヲトロキテ、日来キコヘシ曲者コソ乱入シテ侍ベリ。マッ吾儔^{ワナミ}出向テ問答スベシト云フ。聖人キコシメシ、言コトナカレ、我ヲモフ事アリトテ、⁽³⁴⁾笑ヲ含ミ離衣素服ニテ、左右ナク出逢タマヒヌ。スナハチ尊顔ニ向ニ、聖人ハモトヨリ、廣額稜目ノ相イマス。是レ大人智者ノ相也。播磨ノ公修験者ナレハ、人相ハヨク知ヌ。一見ニ我情ヲ折、タチマチニ帰依渴仰ノコ、口発リテ、害心スミヤカニ消失ヌ。庭上ニフミシツミテ、件ノ事ヲカタルニ、聖人イサ、カ驚ケルイロナシ。誠ニ今日ハ能弟子ヲコソ得メト思ツルニ、果シテ御房ノ来ラレタリトノタマヘリ。播磨ノ公思ヘラク、是ゾ生身ノ如来ナリト、立地^{タチトコロニ}弓箭ヲ折、刀杖ヲステ、柿衣ヲヌギ、改悔涕泣シテ御弟子トナレリ。明法房證信是也。檜原^{ナラ}ト云所ニ住セリ。聖人ニサキダチテ往生ヲ遂ヌ。⁽³⁵⁾

聖人五十一歳ノコロニヤアリケン、稲田ヨリ鹿嶋行方ヲ教化アリ。与澤ト云里ヲトホリタマフニ、其村ニ平田某ト云庶民アリ。聖人ヲ迎ニ出テ申ヤウ、某カ妻スギシコロ産難ニテ身マカリヌ。流轉シテ亡魂夜毎ニ来テ、泣サケフコトスサマシ、。サマ〜ニ追善ヲナスニ更ニシルシナシ。伏シテネカハクハ、是ヲ弔テ流轉ヲ救タマヘト、哭々申ケリ。聖人キ、テヲホシメシケルハ、尽十方ノ無碍光明ノ至ラヌトコロアルベカラズ。其光明ノ照サヌ罪モアルベカラズ。救フニ何ソ難カラントテ、彼カ家ニ入、礫石ヲアツメ、三部大乘ノ石經ヲ書テ、亡女カ墓ニウツミ、三日ヲ期シテ弔タマフ。第二日ノ夜、亡女ウルハシキカタチヲ^(35ウ)現シ聖人ヲ礼拝シテ云ク、明師ノトムラヒニ由テ、速ニ血盆ヲイテ、清淨ノ國ニ往生ス。タトヒ骨ヲクタクキ、身ヲクタクキテモ、猶此恩報カタシト。又家内ノ眷屬ニ告テイハク、此上人ハ生身ノ如来ナリ。妾カタメニフカク報恩ヲイトナムベシト云終テカケノ如クニキエウセタリ。是ヨリ渴仰日々ニアツシ。聖人其コ、ロサシノ深ヲ感シテ畫像ノ弥陀ヲ賜ハル。

嘉禄年中、聖人五十四歳、天童ノ告ニ因テ、下野國大内庄ニ一寺ヲ建立シタマフ。又靈夢ニ因テ、信州善光寺分身ノ如来ヲ感得シ、此寺ニ安置シタマフ。後ニ真仏房ニ^(36オ)附属シタマヘリ。高田専修寺是也。

聖人アル年夏ノ初常陸國霞浦^カト云トコロニ行タマフ事アリ。海邊ナルカ、浦人申ケルハ、コノゴロ海上ニスサマシキ光物アリ。其故ニヤ魚鱗モ浦ヘ寄コトナシ。是イカナル凶事ニカアルヘキト云。聖人アヤシクオホシメシ、或日ソノ汀ニユキコレヲ窺見タマフニ、彼光物漁父ノ網ニツレテ汀ニ寄レリ。是ヲ見タマヘハ、金泥ノ弥陀ノ古仏ニテアリキ。聖人ハナハタヨロコビ、我ニ有縁ノ仏像ナリトテ、御衣ニツ、ミ稲田ノ草庵ニカヘリタマヘリ。駿河國阿部川ヲワタシタマヘルホトケ是ナリ。

聖人御因縁卷三下終⁽³⁶⁷⁾

親鸞聖人御因縁卷四

寛喜年中、聖人数日御説法アリケルニ、毎日白衣ノ老翁キタリテ聴聞ス。其躰氣高クシテ尋常ノ人ニアラス。一日諸人ミナカヘル。老翁ヒトリノコリテ聖人ニ申ヤウ、ワレコノゴロ明師ノ法味ヲウケテ、心身ヨロコヒニタヘズ。ナヲ更ニネガヒ奉コトアリ。我白頭ニ剃刀ヲアテ、法名ヲ賜ハラバ、志願満足セント。聖人コ、ロヨク許諾アリテ、スナハチ剃刀ヲアテ、誦文シ法名ヲ信海ト書テサツケラル。老翁頂戴尊重シテ申サク、我ヒコロノ願望ステニ満足セリ。僕マタ能水ヲツカサドルコトアリ。今日ノ布施物ニ、師ノ弘法ノ地ニ於テ、シカシナカラ冷水ヲ献セント云ヲハリテ速ニサリヌ。人々⁽³⁷¹⁾不思議ノヲモヒナシ、彼翁ノアトヲトメユクニ、鹿嶋ノ神籬ニ入ヌトヲボヘテ迹ナシ。其後神事アルニ由テ社頭ヲ開ニ、聖人ノ賜ヒシ法名歴然トアリケリ。マコトニ聖人ノ化導神明ニ通ズルモノ、カクノゴトシ。不思議ナリシコトナリ。是ヨリサキ嘉禄年中ニヤアリケン。聖人鹿嶋ノ神社ニマキリタマフニ、神感サマ⁽³⁷²⁾ナリキ。コノ神ハ東國ヲマモルノ霊神ニシテ、マタ和光ノ方便ヲアフギタマフユヘナルベシ。或説二本地観音ニテマシマストカヤ。聖人マタ弥陀應現ナレハ、内鑑冷然ナランコトウタガフヘカラスト^云。聖人常陸下野ヨリ相州鎌倉ニカヨヒテ、道々教化アリ。或時日クレテ一人下野ヘカヘラセタマフニ、衣川ト云大河ニテ舟ハアリ⁽³⁷³⁾テ、渡守ハミエズ、イカゞセントヲホシメストコロニ、松明ヲタテ、来モノ、年齢十五六バカリナル童子ニアリケル。聖人ニ申ケルハ、童ハ小栗ト云カタへ行モノニテサフラフ。ハヤ舟ニメサルベシ。渡タテマツラント云フ。聖人ヨロコヒタマヒ、如渡得舩トハ今コノトキナリト、口号シタマヒ渡スマシテ、聖人問タマワク、

先途ハルカナリ、松明モミヂカシ、少童タ、一人ユクコトモヲホツカナシト。童ガイハク、道ノ程トオクトモ、松明ハタリヌベキコトアリ。聖人ハイツクヘ行タマフゾ。我ハ云云ノカタヘ行ナリ。童子打ワラヒテ、イカサマニモ小栗ノ邊マテハ供奉ツカンマツルベシ。御コ、ロヤスカルベシトテ、先ニ立テアユミユク。ユキくスルホドニ、小栗モスキテ十町バカリ北マデマキリ(38オ)タリ。聖人杖ヲト、メテノタマフヤウ、遥タノミチ送タマハルコトマコトニコ、ロサシフカシ。又僅ニミヘシ松明ノコレマテツ、クコトモ不思議ナリ。サルニテモ童子ハイカナル人ニテ侍ゾト、ネンコロニ問タマヘハ、我ハ筑波山十八童子ウチ茶喃玖童子ニテサフラフ。筑波山稲村権現ノ仰ニ因テ、師ヲ送マキラセヌト云テ、忽ニ失サリニケレハ、火モマタキヘヌ。是マタ不思議ノコトトモナリ。當初應長年中、高田ノ專空ノホラレシニ、面謁ノトキ此物語アリテ、是ハ常ニハ言サルナリト申サレタリ。サシテ秘事スベキ事トモヲホヘズ。如何ナルコ、ロニヤアリケン。知カタシ。又茶喃玖童子ノ事ノ問シカバ、是ハ実ニハ伊奈牟羅ノ如意輪ノ事也。其生身ノ躰ハ三(38カ)箇ノ岩屋之内ニマシマス。斯申モ筑波権現ヘ恐アリト物語アリシナリ。サテハ件ノ奇異ナント彼山ノ秘事ナルニヤ。稲村ノ如意輪ナラビニ三箇ノ岩屋ノ事、ワレイマダクワシク是ヲ知ス。後ノ人ツマビラカニ尋ベシ。

聖人御トシ六十餘歳、北國関東ノ教勸成就シテノチ都ヘノボリタマフ。相模國江津ト云所ニシハラク滞留シマシくキ。是ヨリ教化ノ縁アレバ、ヨリくニカヨヒテス、メタマヘリ。カクアリシ折フシ、鎌倉ノ北條家一切経ヲ書写シテ、校合慶賢ノ法會アリ。是ハアマタノ知識ヲ請ジテ修スル大會ナリ。コノトキ親鸞聖人ハ拔群ノ智者ナルヨシ沙汰アリケレハ、招請シテ文字章句ヲ撰(39オ)宗匠トス。聖人ハツネニ徳ヲカクシ、田夫野叟ニ類スルヲ緯トシ

タマフトイヘトモ、冥薫マガキニモレ、靈光ツ、ムニ餘アレハ、今大會ノ宗匠ニエラバレタマヘリ。北條武蔵守泰時ノ時代ナリトカヤ。泰時ハジメハ修理亮ト号セリ。此ノ法會ノトキハ聖人六十三歳ナルベシ。

聖人六十餘歳、東関ノサカヒヲ出テ、花落ニヲモムキタマフ。或日箱根山ヲ越タマヒケルニ、日スデニクレケリ。

通夜^{ヨモスカ}ノホリテ、ハヤ暁ニチカクナリニキ。暫休息アランカタメニ、アル人家ニトモシ火ノミヘケルニ、立寄案内シ

タマヘヌルニ、思ハズモ装束ヒキ繕タル翁トミエマカリ出テ、申ケルハ、翁ハ當社ノカンナキニテ侍ヘリ。友ノカ

ンナギドモト寄アツマリ、酒モリシテ遊シニ、興ニツカレ侍ル^(39ウ)マニ、イサ、カ寄居テサブラフト思ニ、タ、今

夢ニモアラズ、又幻トモナク権現ノ御告アリ。我タフトムベキ客僧タ、イマコ、ヲ過タマフ事アリ、誠ヲツクシ丁

寧ニ饗應オイタスベシト御示現イマタ終サルニ、貴僧来臨シタマフ。何ソ凡人ニマシマサン。神勅コレアキラカナ

リ。アヘテハ尊重ノマコトヲツクセリ。コレニ因テ一日御逗留アリ。コレマタ聖人ノ化導、神明ノコ、ロニカナヒ

タマフユヘナリ。ソレヨリノホリテ、駿河國阿部川ニツキタマフ。折フシ雨フリ水カサマリテ、旅人ワタルコトカ

ナハズ。兩ノ岸ヲ見レハ、人ノ塘ナントツキタルヤウニ見タリ。聖人モ笈ヲ下サセ、休タマフニ、背後ヨリ僧一人

キタリテ云ク、川水ハ思ヨリ深カラ^(40オ)ズ。此川ノ淵瀬ハワレヨク知ヌ。イザ、セタマヘ、御供ノ人々モ我ニツキ

テ渡ラルヘシ。川ハ膝ニモ及スト云テ、聖人ノ手ヲ取テ、川ニザブト入キ。誠ニ水ハ膝ヨリ下トモ覺タリ。ワタリ

スマシテ見レハ、彼僧タチマチニ笈ノ中ニ入タマヒヌ。人々不思議ナリトテ、笈ヲ開ミレハ、當初霞浦ニテ得タマ

ヒタル阿弥陀ノ木像ヲ、コノタヒ負テ登ラレケルカ、其ノ木像ノ膝ヨリ下、水ニヌレテマシ^クケル。コ、ニ於テ

件ノ化僧ハ是ノトケナルコトヲ知レリ。甚不思議ナルコトナリ。サテ其夜ハ手越ニ止宿アリケル。長途ノツカレニ

テ、三人トモニハヤクネムリタマヘリ。夜半バカリニ御供ナリケル一人夢ミルヤウ、笈ノ中ノ木像枕ニ立テノタマ
ワク、⁽⁴⁰⁾汝今日川ヲ渡シタルコト大ヨロコバシキヤ。夢ノ中ニ答テ申サク、サレハ、仏ハ後ノ世ノ苦患ヲコソ救
タマハンニ、現身ノ水難ヲ救セタマヘハ、後世ノコトモサゾトイヨクタノモシクコソサフラヘ。木像手ヲ拍テ笑
タマハク、汝ヲロカナリ。我タタ今日ノ恩ノミカハ。久遠劫ヨリコノカタ、生死ノ大海ヲ渡サンタメニ、無量ノ大
願ヲオコシ、弘誓ノ船筏ニ棹サシテ、娑婆界ノ衆生ヲノセツクサントテ、千返影向ハ、此厚恩ハ知ズヤ、トノタマ
ヒテ夢サメタリ。感激ニタヘカネ、聖人ヲ驚カシ奉テ、スト語ル。三人トモニ墨染ノタモトヲシボリアヘタマハス。
嘉禎^{乙未}年ノ秋、聖人華洛ニカヘリタマヒヌ。倩往事ヲモフニ、⁽⁴¹⁾年ノ矢ノハヤキコト夢ノゴトク、白駒ノスクル
コト幻ノコトシ。ソノカミ断金ノムツビヲ問ヘバ、ムナシク東岱ノ雲ニカクレ、イニシエ芝蘭ノ友ヲタツヌレハ、
ツキニ北芒ノ露ニキヘヌ。イト、昔ヲヲホシメシ出シケル。御還洛ノハシメヨリ、毎月廿五日、源空上人ノ忌ヲム
カヘ、人々ヲ集會シ、聲明ノ宗匠ヲ屈請ジテ、念仏勤行アツテ、ネンコロニ師恩ヲ謝シタマヘリ。

同年冬ノハジメ、下妻ノ蓮位房、横曾根ノ性言房、聖人御飯洛ミマヒノタメニ上京ス。コノ二人ハ、ソノサキ聖人
御飯京ノ時供奉セシヲ、箱根ノ東ヨリカヘサレケリ。因テコノタバヒ登ラレヌ。ソノノチ南庄ノ乗然房ヲ初トシテ、
東國ノ御門⁽⁴²⁾弟、日ヲ追テタツネマキリケリ。聖人跡ヲトメクルモモノウシトテ、或時ハ二條富小路ニマシク、
或時ハ一條柳原、又ハ三條坊門富ノ小路、河東岡崎、アルイハ吉水ノ邊ニモカクレ、清水ナムトニモマシマセリ。
五條西洞院ノ禅坊ハ常ノ住居ナリ。

聖人五條西洞院ニマシマストキ、常陸國大部郷ノ庶民平太郎ト云モノハ、ソノカミ聖人ノオシヘヲ信シテ、二心ナ

カリキ。コノタビ所務ニ駆テ、紀州熊野神社ニ詣ケル。スナハチ御許ニマキリテ件ノ事ヲ申ケリ。聖人ノタマハク、神明ニハイツハリナシ。證誠殿ノ本地ハコレ西方ノ教主ニテマシマス。唯ヒトヘニ本願ヲ信シ、誠ヲツクスベシ。常没ノ凡心ナカラ、強テ威儀ヲカヒツクラフベカ」⁽⁴²⁾ラズ。神明ヲカロシムルニアラス。ソモノ和光ノ方便ハ、ヒトヘニ佛道ニ引入セント欲スルニアリ。ユメノ冥眊ヲメグラシタマフヘカラスト^云。是ニヨリテ平太郎熊野ニ參詣スルニ、唯師教ニマカセ、道ノ作法トリワキテ威儀ヲツクラフ事ナク、ヒトヘニ誓願ヲ信シテ他ナシ。ハタシテ無爲ニマイリキ。神前ニ通夜イタシケルニ、靈夢アリ。権現證誠殿ノ扉ヲオシヒラキ、衣冠ノ姿ニテ咎テノタマハク、汝何ノ故威儀ヲモツクロハテ、我前ニマキルヤト。其時聖人忽尔トシテアラハレタマヒ、是ハ善信ガス、メニマカセテ參ケル者ニハベル、ト仰アリケレハ、権現笏ヲタ、シクシ、聖人ニ色代アリ、アヘテ咎メタマフコトナシト見テ、夢サメ」⁽⁴²⁾畢ヌ。奇異ノヲモヒヲナシ、販洛ノトキ聖人ニマキリテ、^云事アリト申ニ、聖人キ、タマヒテソノコトナリトノタマヘリ。誠ニ不思議ノコトナリ。

聖人七十歳ノトキ、御弟子入西房、ヒコロ聖人ノ壽影ヲウツシ奉ラント思コ、ロアリ。聖人請ニ其コ、ロサシヲシロシメシ、入西ニ示シテノタマハク、七條ノ邊ニ定禪法橋ト云佛絵師アリ、彼者ニウツサシメヨト。入西房鑿察ノムネヲヨロコヒ、スナハチ彼ノ法橋ヲマネキ、聖人ノ尊顔ヲ拜セシム。定禪申テイハク、昨夜奇特ノ夢ヲナン感ス。ソノ夢ニ貴僧二人來タマヒテノタマハク、此一人ノ化僧ハ善光寺ノ本」⁽⁴³⁾願ノ御房ナリ。汝コノ僧ノ真影ヲウツシ奉ベント。某夢ノウチニサテハ生身ノ弥陀如來ニコソト、身ノ毛ヨダチテ尊敬シタテマツリキ。今コノ聖人ノ尊容夢ノウチノ化僧ニイササカモタガヒタマハズトテ、感涙ニシツミテケリ。夢ハ仁治三年五月二十日ノ夜ナリ。聖人

弥陀如来ノ應現ト云コト誠ニアキラカナリ。

聖人八十歳正月、御病疾ニテヲ、ヨソ絶食ノヤウニテアリシガ、二月ノハジメヨリ快然タリ。因テ三月ノ始ノコロ
文類聚抄ヲ書タマヘリ。

建長八年二月、聖人御病氣アリ。顕智房ト蓮位房ト給仕ニ侍ヘリキ。事ノツイテアルマ、蓮位申サク、聖人マサ
シク(43)権化ナリト。顕智房ハ茶ヲ吞テアリシカ、遠カラヌ日ニ實ハ知タマハント申サレキ。サテナン、不思議ノ
夢想ヲ感スルコトアリ。所謂聖徳太子親鸞聖人ヲ礼シ奉テイタマハク、

敬礼大慈阿弥陀佛 爲妙教通来生者

五濁惡時惡世界中 決定即得無上覺也

時ニ建長八年二月九日ノ夜ナリ。シカレハ皇太子、蓮位ヲハシメ諸人ヲシテ、権化ノ聖人ナルコトヲ教示センガタ
メニ、此靈告アルモノナリ。マス、弥陀如来ノ應現ナリト云コトヲ信スベシ。夜明テノチ、蓮位壁ニ目グワセシ
テ、顕智ハ神通ヤオハシケン。ヨソロシキ人ナリト独ツブヤカレキ。(44)

聖人ツネニ門人ニ仰ラレテ言ク、予ムカシ難行ノ小路ヲ出テ、本願他力ノ大道ニ入コト、ヒトヘニ大師源空ノ教示
ニヨリテナリ。源空ノ本師大勢至菩薩也。マタ末代相應ノ行状ヲシメスコトハ、専ラ如意輪救世ノ告命ニシタカヒ
テナリ。二大士ノ引接シカシナガラ万機ヲ捨ザルニアリ。マサニ知ヘシ。弥陀如意輪ノ法ニハ、不淨ヲハ、カラズ、
予ガ門人等内心ニフカク此密意ヲ思ヘキナリ。

聖人満九十歳、仲秋ヨリ門人ノコト問来モムツカシトテ、御舎弟善法房ノ僧都ノ里坊善法院ニ移マシマス。今年十

月イサ、カ御老病アリシカ、亦イエニケリ。十一月下旬ノハジ」^(44ウ)メヨリ御イタワリニツキタマヒ、口ニ餘事ヲ交ヘス、モハラ称名タフルコトナシ。折々ニ尊曠大ノ御慈悲、大師源空上人勸化ニ逢奉コトヲヨロコヒタマフ。同廿八日午ノナカバニ至テ、頭北面西ニ右脇ニ臥、念仏ノ息トトモニ遷化シタマヒヌ。終焉ニ逢門人、勸化ヲウケシ老若、仏日ステニ滅シ、法灯コ、ニ消ヌトテ、戀慕涕泣セスト云コトナシ。干時弘長第二^壬戌ノ冬ニソアリケル。禅坊ハ三條坊門ノ北カワ、富ノ小路ノ西ガワナレバ、ハルカニ河東ノ路ヲ歴テ、鳥部野ノ南、延仁寺ニオクリテ火葬シタテマツル。遺骨ヲ拾テ、鳥部野ノ北、大谷ニ納ヲハリヌ。聖人在世ノ奇特兎毫ニツクシガタシ。」^(45オ)滅後ノ潤益、魚網ニアマリアリ。唯九牛ガ一毛ヲシルシテ、百万端ノ報謝ニ擬スルモノ尔ナリ。

文和元年^壬辰十月廿八日草之畢

存覺老納六十三歳

享保十四^己酉十月九日写之

良珠院現住

一 法院貞梁

為獅子吼院真雄上人

淳忍法信禅尼」^(45ウ)

文化八年^辛未七月写之」^(46オ)

本翻刻をご許可くださった大谷大学図書館及び、生桑完明師の校合された『親鸞聖人正明傳』を快く御貸与くださった平松先生に深甚の謝意を申し上げます。
対校は紙面の都合で次号に掲載予定。